

奈良県の地震

【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

【奈良県地震概況】

【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の一覧】

【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の震度分布図】

【地震一口メモ】

地震本部による長期評価について

「奈良県の地震」は、奈良地方気象台における地震調査の一環として県内の地震活動状況を的確に把握し、きめ細かい防災対策に資するため 1989 年 1 月より月 1 回発行しています。「奈良県の地震」は、上記の項目で構成し、適宜地震解説資料や用語解説等を掲載します。

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体、及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

※この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

奈良地方気象台
2024 年 2 月

本誌の過去分は奈良地方気象台ホームページでご覧いただけます。

URL : <https://www.data.jma.go.jp/nara/jisin/jisin.htm>

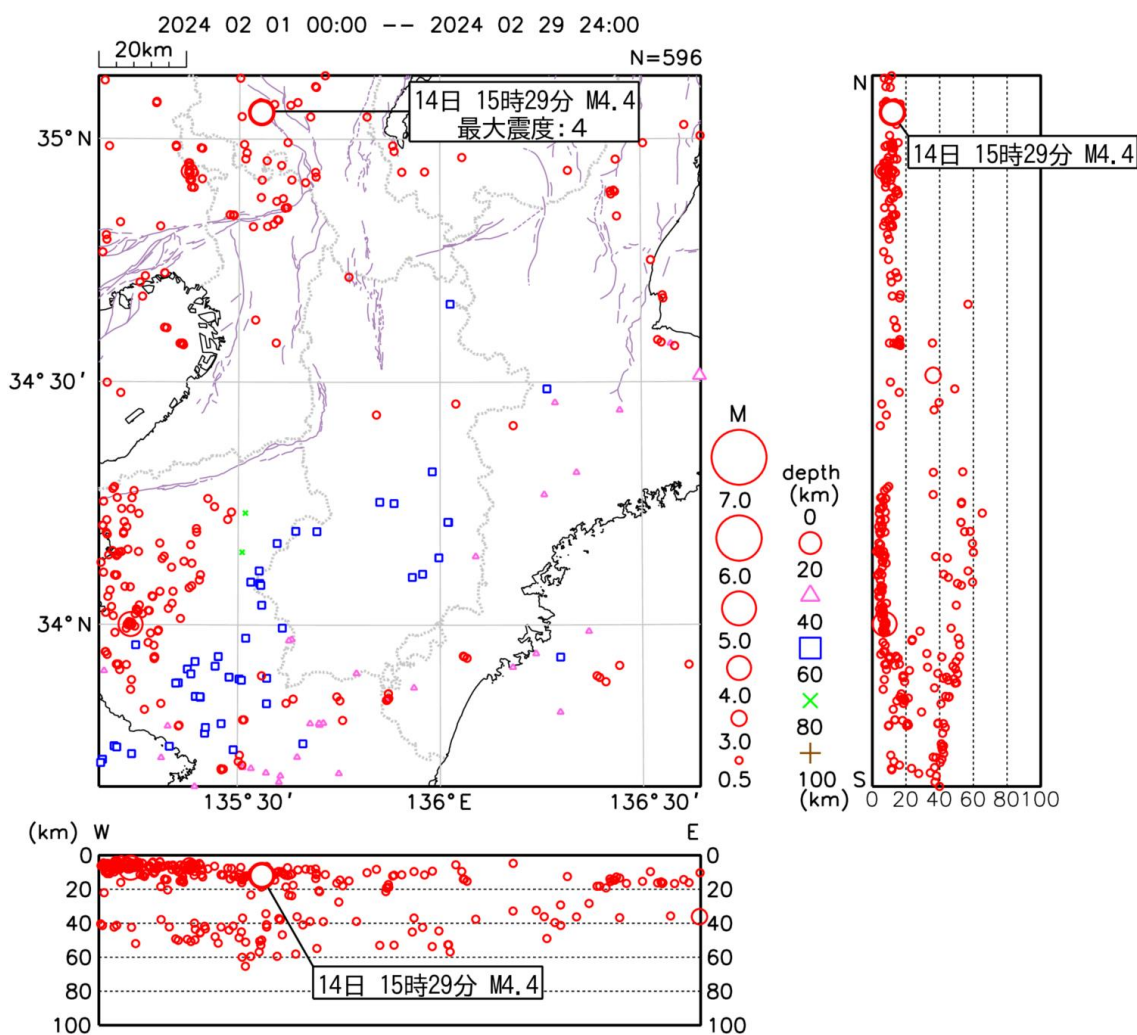


【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

震央分布図（左上）は、地震が発生した場所を地図上に表し、記号の大きさと地震の規模（マグニチュード、Mとも表記）と記号の種類で震源の深さを表しています。また、紫色の線は地震調査研究推進本部による主要活断層帯を表しています。南北方向の断面図（右上）と、東西方向の断面図（左下）で地震の垂直分布を表し、これらにより地震の発生状況と規模が把握しやすくなります。

図中の吹き出しは、奈良県内で震度1以上を観測した地震を示しており、地震の発生日時や規模などを記載しています。なお、最大震度は奈良県内とは限りません。



【奈良県地震概況】

14日15時29分 京都府南部の地震（深さ12km、M4.4）により、奈良県内では奈良市、大和高田市、大和郡山市、天理市、御所市、生駒市、山添村、斑鳩町、川西町、曽爾村、高取町、広陵町、宇陀市で震度2を観測したほか、県内の広い範囲で震度1を観測しました。

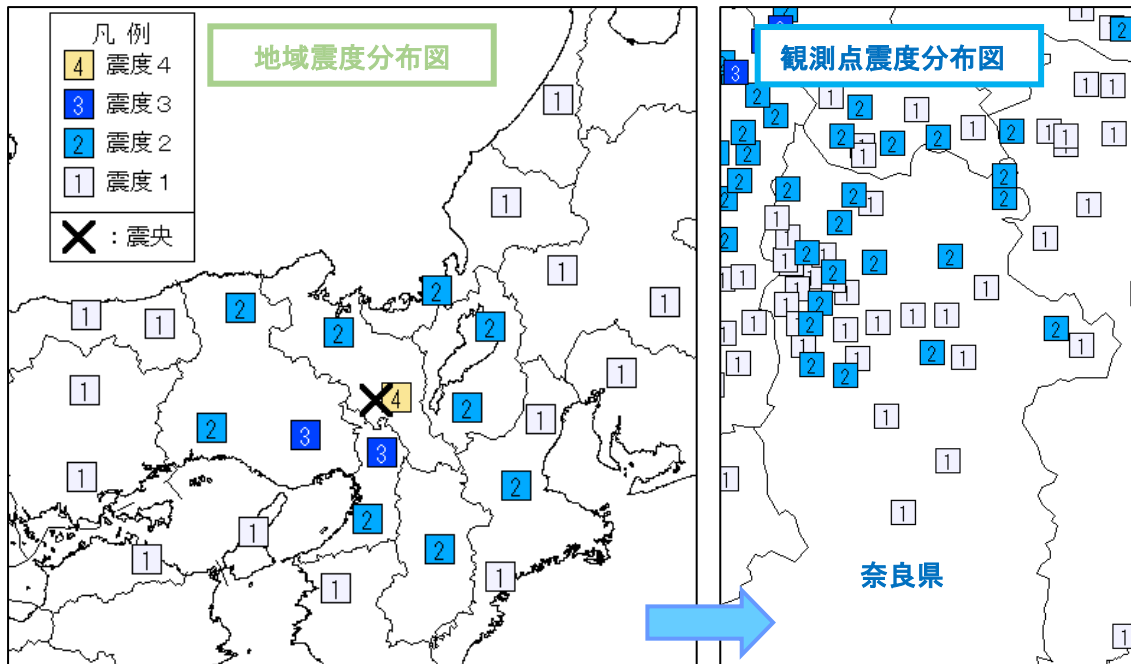
【奈良県で震度1以上を観測した地震の一覧】

震源時(年月日時分)	震央地名	北緯	東経	深さ(km)	M
各地の震度（奈良県内のみ記載）					
2024年02月14日15時29分	京都府南部	35° 03.2' N	135° 33.3' E	12km	M4.4
震度 2：奈良市月ヶ瀬尾山＊、奈良市二条大路南＊、奈良市都祁白石町＊、大和高田市大中＊、大和郡山市北郡山町＊、天理市川原城町＊、御所市役所＊、生駒市東新町＊、山添村大西＊、斑鳩町法隆寺西＊、奈良川西町結崎＊、曽爾村今井＊、高取町観覚寺＊、広陵町南郷＊、宇陀市大宇陀迫間＊					
震度 1：奈良市西紀寺町、大和高田市野口＊、橿原市八木町＊、桜井市初瀬、桜井市粟殿＊、香芝市本町＊、平群町鳴川、平群町吉新＊、三郷町勢野西＊、安堵町東安堵＊、三宅町伴堂＊、田原本町役場＊、御杖村菅野＊、明日香村橘＊、上牧町上牧＊、王寺町王寺＊、河合町池部＊、吉野町上市＊、天川村洞川、奈良川上村迫＊、葛城市柿本＊、宇陀市菟田野松井＊、宇陀市榛原下井足＊、宇陀市室生大野＊					

＊印は地方公共団体等の震度観測点です。

【奈良県で震度1以上を観測した地震の震度分布図】

2024年02月14日15時29分	京都府南部	35° 03.2' N	135° 33.3' E	12km	M4.4
-------------------	-------	-------------	--------------	------	------



奈良県付近を拡大

【地震一口メモ】

～地震本部による長期評価について～

地震調査研究推進本部（以下、「地震本部」と言う。）は、「同じ場所で同じような地震がほぼ一定の間隔で繰り返す」という仮定のもとに、大きな被害をもたらす可能性が高い活断層の地震や海溝型地震について地震発生確率などの長期評価を毎年公表しており、今年も2024年1月1日を算定基準日とした長期評価を1月15日に公表しています。

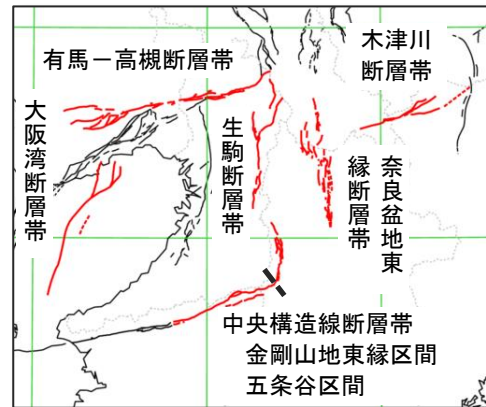
公表された長期評価によると、奈良県やその周辺にある活断層の地震については評価の更新はありませんでしたが、近畿地方では有馬－高槻断層帯、大阪湾断層帯、南海トラフ地震について一部の評価が更新されています。

活断層の地震発生確率を見ると小さいと思いがちですが、2016年の熊本地震（布田川断層帯）の発生直前の30年以内の地震発生確率はほぼ0%～0.9%、地震後経過率は0.08～0.9でした。地震後経過率が1より大きいものや1に近いものは、他の活断層より規模の大きな地震の発生確率が高いとされています。

また、地震本部の報告では、令和6年能登半島地震は長期評価を行っていない活断層が関連した可能性が高いとしており、長期評価を行っていない活断層に対しても注意が必要です。

南海トラフ地震についても30年以内の地震発生確率は70%～80%、地震後経過率は0.88となっており、南海トラフ沿いの大規模地震発生の切迫度が高い状態です。

日本は世界的に見ても地震活動が活発で、どの場所においても、地震による強い揺れに見舞われるおそれがあるため、平時から地震への備えを進めてください。



地震調査研究推進本部による活断層
赤色：奈良県やその周辺にある活断層と近畿地方で長期評価に変更があった活断層

奈良県やその周辺にある活断層と近畿地方で長期評価に変更があった活断層の長期評価

活断層名	予想した地震規模 (マグニチュード)	地震発生確率		地震後経過率
		30年以内	50年以内	
奈良盆地東縁断層帯	7.4程度	ほぼ0%～5%	ほぼ0%～7%	0.2-2.2
生駒断層帯	7.0-7.5程度	ほぼ0%～0.2%	ほぼ0%～0.3%	0.2-0.5
木津川断層帯	7.3程度	ほぼ0%	ほぼ0%	0.007-0.04
中央構造線断層帯(金剛山地東縁区間)	6.8程度	ほぼ0%	ほぼ0%	0.2-0.3
中央構造線断層帯(五条谷区間)	7.3程度	不明	不明	不明
有馬－高槻断層帯	7.5程度	ほぼ0%～0.04%	ほぼ0%～0.1%	0.2-0.4
大阪湾断層帯	7.5程度	0.005%以下	0.009%以下	0.4以下

南海トラフ地震の長期評価

予想した地震規模 (マグニチュード)	地震発生確率			地震後経過率
	10年以内	30年以内	50年以内	
8～9クラス	30%程度	70%～80%	90%程度もしくはそれ以上	0.88

青色が更新された長期評価